

目 次

平成30年 9月12日（水曜日）第2号

○招集年月日	-----	1 頁
○招集の場所	-----	1 頁
○開 議 日 時	-----	1 頁
○応 招 議 員	-----	1 頁
○不応招議員	-----	1 頁
○出 席 議 員	-----	1 頁
○欠 席 議 員	-----	1 頁
○地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名	-----	1 頁
○本会議に職務のため出席した者の職氏名	-----	1 頁
○議 事 日 程	-----	2 頁
○開 議 宣 告	-----	3 頁
○一 般 質 問	辻議員 -----	3 頁
	・長万部まちづくりアクションプランの周知等について	
	大谷議員 -----	7 頁
	・一次産業の活性化など継続して取り組むべき課題とは	
	・スキー場の斜面に花を	
	長崎議員 -----	9 頁
	・長万部地区を各町内会の名前で	
	・先進的アグリビジネス事業について	
	村川議員 -----	15 頁
	・子育て支援として給食費の無償化をしてはどうか	
	・地方創生総合戦略の評価・検証とアグリビジネス事業について	
○休会の決定	-----	21 頁
○散 会 宣 告	-----	21 頁

平成30年第3回長万部町議会定例会（第2日目）

◎招集年月日 平成30年 9月12日（水）

◎招集の場所 長万部町役場 議場

◎開 議 日 時 平成30年 9月12日（水） 午前10時00分

◎応 招 議 員（10名）

1 番	北 川 佳 嗣	6 番	大 谷 敏 弥
2 番	長 崎 厚	7 番	村 川 毅
3 番	辻 紀 樹	8 番	角 健
4 番	高 森 功 治	9 番	柏 倉 恵里子
5 番	橋 本 收 司	10 番	辻 義 雄

◎不応招議員 なし

◎出 席 議 員 応招議員に同じ

◎欠 席 議 員 不応招議員に同じ

◎地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町 長	木 幡 正 志	水 道 ガ ス 課 長	中 里 博 也
副 町 長	佐々木 伸 也	出 納 室 長	小 川 洋
総 務 課 長	本 前 武 広	消 防 長	佐 藤 英 代
まちづくり新幹線課長	加 藤 慶 一	病 院 事 務 長	田 辺 知 行
まちづくり新幹線課参事	岸 上 尚 生	教 育 長	近 藤 英 隆
税 務 課 長	中 山 裕 幸	教 育 次 長	岡 野 喜 美 雄
町 民 課 長	佐 藤 剛	教育委員会事務局参事	佐 藤 修
保 健 福 祉 課 長	岡 部 忠	選挙管理委員会書記長	本 前 武 広
産 業 振 興 課 長	対 馬 政 宏	監 査 事 務 局 長	豊 嶋 慎 一
建 設 課 長	神 野 隆 之	農業委員会事務局長	対 馬 政 宏

◎本会議に職務のため出席した者の職氏名

議 会 事 務 局 長	豊 嶋 慎 一
議 事 係 長	増 田 理 恵
議 事 係	岡 田 幸

◎議事日程

日程第 1

一 般 質 問

◎開議宣告

10時00分 開会

○議長（辻義雄） ただいまの出席議員は10名であります。
定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

◎一般質問

○議長（辻義雄） 日程第1、一般質問を行います。お手元に質問用紙を配付いたしました。質問者は4名、質問件数は7件となっております。

この際申し上げます。一般質問の質問時間は各議員40分以内と決定しております。質問時間の終了3分前と、終了時にブザーを鳴らしますものであらかじめご承知おきください。それでは順次質問を許します。

辻紀樹議員。

〔議員（3番 辻紀樹）登壇〕

○議員（3番 辻紀樹） 1点質問させていただきます。長万部まちづくりアクションプランの周知等について。

今年3月長万部まちづくり推進会議より提言を受けた「長万部まちづくりアクションプラン」の内容について、長万部町ホームページに掲載されていますが、広く一般町民に対し内容を周知する必要があるのではないのでしょうか。このことを踏まえ、以下の点について質問いたします。

1点目。周知するお考えがあればどのような方法が考えられるのか。

2点目。計画案に対する意見・要望があったときは、どのような対応となるのか。

3点目。町職員に対して周知されているのか。

以上3点について、町長の所見をお伺いいたします。

〔議員（3番 辻紀樹）自席へ〕

○議長（辻義雄） 木幡町長。

〔町長（木幡正志）登壇〕

○町長（木幡正志） 長万部まちづくりアクションプランの周知等について、ご回答申し上げます。

長万部まちづくりアクションプランの周知につきましては、役場のホームページで公表しているほか、役場窓口においても閲覧可能として情報公開を行っております。また、5月に長万部小学校で実施された特別授業や、6月に学習文化センターで開催された北海道新幹線建設工事説明会の中で、アクションプラン策定の趣旨と駅前周辺整備イメージを説明するなど、住民への周知を図っているところであります。アクションプランの各施策は多岐にわたり、取り組みも長期間であることから、要点を絞った分かりやすい説明を関連する会議や説明会などを活用して行うことにより、今後も町民への周知を図ってまいりたいと考えております。

意見・要望があった時の対応につきましては、アクションプランの目的は新幹線の開業効果を最大限に発揮するまちづくりであるため、住民から良い意見・要望があった場合には、目的達成のため各施策の検討内容や取組時期について柔軟に変更・修正し、対応してまいる考えであります。

町職員に対しての周知につきましては、管理職で構成する庁内プロジェクトチームは策定段階か

ら関わっておりますが、その他の職員については、特に周知は行っておりません。以上です。

〔町長（木幡正志）自席へ〕

○議長（辻義雄） 辻議員。

○議員（3番 辻紀樹） それでは各質問を再質問させていただきます。

それなりに周知の対応はしてるということですけども、周知の方法として、これはホームページに立ち上げる。見ました、全部立ち上がっています。でも、ホームページですと見る人がある程度限られてくる。例えば高齢者の方は見ないし、小学生、中学生、まあ中学生あたりは見ようと思えば見れるんでしょうけども、なかなかそこまではいかない。やはりこういう、将来新幹線がある以上は、ずっと50年100年と駅があるわけですから、やはりいろんな年代の方の周知、全員とは無理でしょうけども、1人でも多くの方がこの事業を周知する。100%周知するというのは、事業内容周知するのは難しいでしょうけども、ある程度のものは周知する。これからどんどん町の広報等で周知されるんだろうとは思いますが。広報というのはこれと同じA4版ですよ。その中に例えば皆さん一番知りたがるのはこの駅の周辺の図面だと思うんです。そうするとこれに、A4版にするということは、かなり縮小されますよね。すると字は見えない。老眼掛けても見えない。天眼鏡で見なきゃ見えないという人もかなりいる。周知の方法なんですけども、これ僕パソコンから取りまして、A4版に落として見ました。これをちょっとはさめるだけで、これが皆さん知りたい、これを見てその事業に興味を持つというか。そういう面で、これはひとつのアイディア、もっとやり方があるとは思いますが、そういう周知で分かりやすい、さっきちょっと答弁で言った分かりやすい周知の方法というものを考えてみたらどうでしょうか。

それと、ちょっとお聞きしますと、民間の方で一生懸命ジオラマっていうんですかね、そういうものを作っている方もいるというお話を聞きました。こういう図面と、ボランティアで作るわけですからそんなにいいものはできないとは思いますが。でもそういうものがあれば、町内会に説明に行くときとか、町長が行政報告で町内を周るときに、そういうものを参考としてお借りして見てもらった方がより分かりやすい、実感できるのではないかなと思うんですよね。そういうことを町内会だとか高校、それから大学、そういうところに行って、どうですかね、出前ではないんですけども、そういう計画というのはこれからなされていくんだろうと思うんですが、そこら辺はどうでしょうか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 大変良い提案もございましたけれども、まず今回、今概要版でお話しされてと思うんですけども、来月、まだ日にちは確定はしてないけども、移動町長室等で概要版作って、配布しながらの説明も考えていきたいなと。また町の広報で一部ずつでも抜粋できる部分については、短編でも載せていきたいと思っております。それと同時に、先ほどジオラマの話がちょっと出ましたけれども、実は今「長万部を創造する会」の皆さんが、現状の長万部のジオラマを作成をして、文化祭まで間に合わせたいということで、今作成中であります。これはその駅周辺の模図をやるのではなくて、現在の長万部の姿、駅前周辺の姿をジオラマで製作をして、皆さんにお見せしたい。そのほかに、やっぱりきちっとしたジオラマを作ることになれば、駅の設計図面が例えばA、B、C、3案上がってきた段階で正式にきちっと作って、それを皆さんにお見せして、そしてご理解いただくと。そして最終的には3案の内の1案を選ぶ。こういう形になろうかと思いますので、周知については今後も徹底しながら努めてまいりたい、そう思っております。以上です。

○議長（辻義雄） 辻議員。

○議員（3番 辻紀樹） アクションプランが示されたのは3月ですから、これからいろんな場面

で、いろんなものが出てくると思いますので、その対応をしっかりとさせていただきたい。

次に2点目、そこでいろんな意見が出たときに、それを例えば、僕はこれは町が窓口になって、町がいろんなものを集約していくのかなとは思いますが、町長の中で、例えばそれをまた別の組織、推進協議会がありますけども、推進協議会の中では現状やはりこれが一番良い案だって出してきたわけですから、そこに落とし込むということではなくて、そうするとやっぱり「いやいやそれはこういうわけできない」とか出てきますので、これをどこかに集約してその案をどう生かすかということを検討しなければなりませんよね。それは、役場が中心になってやるのか、どこかまた違う組織を立ち上げてその中で検討するのか。今すぐどこということではできないでしょうけど、方向性としてはどのようにお考えになりますか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 行政報告でもちょっと触れておりますけれども、今月新たにまたまちづくり推進協議会24名、一般の公募の委員さんを含めて24名の皆さんで、今後このアクションプランを含めて、これから起きてくるであろう長万部の数々の計画を、そこで協議をしてもらって、行政の政策範囲生かしてと、こういう形でちょっと考えておりますので、それをひとつご理解いただければと思ってます。

○議長（辻義雄） 辻議員。

○議員（3番 辻紀樹） そうすると、その今立ち上がったのは、そのアクションプランの作成している委員がほとんど中心になるというふうに聞いていたんですが。まあ多少の委員の出入りというのはあると思うんですが。これを作った委員会の方が中心になるというような、今は進め方をしているということでもいいんですね。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 前回立ち上がった委員の方々も何人か入るのかな。それから新たに各団体から推薦を受けて出て来てる委員さんも加入してくるし、一般公募もまた変わってきている状況なんで、そのあたりは今これ委嘱する段階で、正式にきちっとして、組織立ち上げながら、まちづくり推進協議会としての仕事をしていただいきたいなと思ってます。以上です。

○議長（辻義雄） 辻議員。

○議員（3番 辻紀樹） これからの取扱いについては、幅広くということで、考えていただければ結構だと思います。

3点目なんですけども、回答書見て僕びっくりしたんですけども。周知していない、周知はしてないけどある程度担当者も興味は持って見てるとは思うんです。ただ、若い人とか町民の方もそうなんですけど、結構知らない方がいます。それで、町民の方というのは、やっぱり役場に勤めてますと、そんなの関係なく若い人にも聞くわけですよ。例えばいろんな飲み会があったり、部落の事業に参加したときに聞かれて、何も知りませんという話には僕ならないと思うんです。今まではよかったんですよ、アクションプランが提出をされて、そこからスタートということを考えれば、それはそれでいいんでしょうけども、やはり少なくとも町職員はある程度のこと、これはやはり町民に知らせる必要がある。やっぱり役場の職員ですから、責任持てということではないんですが、やはり勉強してもらおうということは肝要なことだと思うんですが、そこら辺町長どうお思いになりますか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） この3項目はお叱りをいただくために答弁したんです。何故かと言ったら、

今日議場における管理職は全てプロジェクトチームの一員なんです。やっぱり責任もって原課の職員に周知をしていく。お知らせしてくってということが一番大事なんです。それができてないとしたら、やっぱり管理職の対応が悪い。それは本会議で堂々と怒ってください。以上です。

○議長（辻義雄） 辻議員。

○議員（3番 辻紀樹） いろいろ今、昔と違って課長方も多方面で忙しいのは事実だと思うんです。それで提案なんですけども、各課でヒアリング等これからやられると思うんです。このプログラムに対して。そこで説明者は企画担当ではなくて、あくまで原課の課長がやる。下の職員に対して。それを取りまとめて原課の職員がそれで課長方のプロジェクトチームで発表する。でなければ課長方勉強しませんよ。企画がリードしてしまえば、原課の課長はただ聞いているだけ。多分メモも取らないと思います。そうじゃないと僕思うんですね。やはりそういう、このプロジェクトはやはり将来に渡ってやるプロジェクトですから。確定しますよ、50年後100年後の新幹線の町並みが。そう思えば、これは町民の推進協議会にお願いする、それはもちろんやらなければならないことです。それよりももっとやらなければならないのは、自分達のまちがどう変わるのか。役場としての考え方、それが全部正しいかどうか分かりませんよ。ある程度自分達で長万部が50年後100年後こういう姿になるんだというものを、やはり出してもらわなければ、どうでしょう。町は、僕たち若いときは宣誓して入ります、役場に。公僕として頑張るんだ。最近他町村さんからの採用が多い、でもそういう人達っていうのはよく見えると思うんですよね、長万部が。どういう町かっていうのが。そういう意見、大学生もそうです。そういう意見を大事にして、やっぱりここは頑張る時期だ。今課長方も退職する人はそんなに多いわけではありません。おそらく5年後6年後でしょう。そうするとその間に決まる話ですから、ここは課長方も、管理職も一緒になって若い人達に教えながら取り組む姿勢が僕は大事だと。それを町民は期待してますし、見てます。そこら辺は今町長に答弁いただいたんですが、どうでしょうか、僕の考え間違ってますかね。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 議員の考え方は間違っておりません。いつも一般質問が終わったら管理職会議を即開いて、例えばどういう答弁をして、今後どのような形でこの出された問題を解決してくってことで管理職会議必ずやります。今日こうして堂々と本会議で出された質問に対して、今日管理職で皆さん聞いておりますので、今度原課対応どうやってくのかってことは、真剣に捉えていくような形にしていきたい、そう思ってます。

○議長（辻義雄） 辻議員。

○議員（3番 辻紀樹） おっしゃっていただいたんで、もうひとつ。それで職員の教育というのは必要だと思うんです。いくら号令掛けても、例えば新幹線の駅見たこともない職員もいます。新聞等では見てるんでしょうけども。それでどうでしょう、バスで現職150人くらいですかね、期間をおいてバスで例えば北斗市、木古内町の駅をかわるがわる、全部が行くという形にはなりませんので1回に。5回か6回に分けて、職員に見せるという教育。そういうのも必要だと思うんですが、どうでしょうかね。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） たくさんご指摘がございましたので、参考にしていきたい、そう思ってます。

○議長（辻義雄） 辻議員。

○議員（3番 辻紀樹） それでは最後の質問にしたいと思うんですが、長期的になる、そのとおりだと思うんです。だとすれば、この意見集約するのはそんなに時間があるわけではないと思うん

ですね。先ほど聞きました新幹線開通まで12年、駅を建築し始めるのが5年。そうしますと、いろんな意見を踏まえて出来上がったものが、反映されるとすれば、例えば駅舎のホームの位置がまだ決まってないわけですから、そういうものがどこにできるかによっても、計画が変わるわけですから、意見を求めて、それが一番良い案だとすれば、変わる可能性もあるとすれば、早め早めに時間はあるといってもここ2、3年の間にある程度の町としての指針は出さなければならぬと思うんですが。そこら辺も踏まえてやはりやるべきだし、それで町外の、計画に対して検討、その中身を研修するというのを、どうでしょう、大手のデベロッパーあたりに本当にこの改革にタッチしないようなデベロッパーの大手にお願いして、これを中身を研修する、1回出てきたものを、よその評価を得てみるという、そういうのもどうでしょうね、必要でないような気はするんですがね。それをやるかやらないかは別にして、評価をしてもらうというのはどういうふうに思います。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 計画づくりには、もちろんコンサルも今回入って、計画の策定もやってきました。それなりの予算も掛けて策定して、これを今度評価するためにまた大手のデベロッパーに頼んで評価をするとすると、相当なお金の予算も掛かることなんで、できる限りは地元でしっかりやっていきたいそう思ってますので、ご理解いただければよろしいなと思ってます。以上です。

○議長（辻義雄） 辻議員。

○議員（3番 辻紀樹） 町長お金は掛かるんです、何やっても。それで、さっきも言ったとおりこれは本当に長万部の将来左右するようなあれですから、お金は掛かるんですけども、そこら辺は今後の課題として検討して、押さえてやれば。やってくれっていう話ではなくて、そういうことも今後出てくるんじゃないかというような質問なんで、そこら辺は、回答はいいですけども、まあそのときに応じた適切な対応をお願いしたい、そういうことで。

○議長（辻義雄） 辻議員、回答は？

○議員（3番 辻紀樹） まあ回答いただければ。できないという回答だったんですけども、そのときに応じて、対応していただければなと思うんですが。どうでしょう。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 回答保留であったり、回答求められたり右往左往なんだけど、先ほど私の答弁したとおり、今後もデベロッパーの方まで手を伸ばす考えはございません。

○議長（辻義雄） 以上で辻紀樹議員の質問を終わります。

大谷議員。

〔議員（6番 大谷敏弥）登壇〕

○議員（6番 大谷敏弥） 私は2問について質問いたします。一次産業の活性化など継続して取り組むべき課題とは。

三月の定例町議会で一次産業の活性化を継続して取り組む課題があるとして、2期目の意欲を語ったと新聞報道に書かれていましたが、新たに施策等を考えているのか。今やどこの町村も人手不足、また、高齢化による担い手の不足、人口減少の中取り組むべき課題とは何か。また、取り組む課題で何を重点的に行うのか。また、どのような支援を模索し行おうとしているのか。町長の所信を伺います。

2点目、スキー場の斜面に花を。

スキー場の斜面を放っておくのはもったいなく、利用方法を高める場所として斜面に花を植え人を呼び込む観光スポットへすることはできないか。例えば芝桜であれば種類もあり、大変きれいな

花です。平面には町花であるアヤメコーナーも設置して、人を呼び込む場所的に良いところです。放置しておくのはもったいないと思うが、町長の所信を伺います。以上です。

〔議員（6番 大谷敏弥）自席へ〕

○議長（辻義雄） 木幡町長。

〔町長（木幡正志）登壇〕

○町長（木幡正志） 一次産業の活性化など継続して取り組むべき課題とはということで、ご回答申し上げます。

一次産業の活性化については、農業の担い手対策として、ほかの町村の担い手センターと連携した広域的な取り組みを検討してまいります。また、労働力不足については、酪農ヘルパーの充実や、地域おこし協力隊との連携を図ってまいります。漁業では、漁業経営基盤として重要な漁港整備や、ホタテ貝養殖漁業の要である優良な種苗の確保の支援を行い、経営安定による担い手確保を図るとともに、繁忙期以外も人手不足が深刻であり、外国人研修生の受け入れを各漁家が積極的に行っておりますが、住居不足の問題も抱えており、今後関係機関との情報共有を密にして、人手不足の改善を検討してまいります。

林業におきましても、林業労働者の減少は深刻な問題であり、引き続き森林整備担い手対策推進事業を関係機関と連携し推進してまいります。

町内的に見ますと、一次産業以外の商工業の活性化対策を含め、政策課題として継続的に取り組むが必要と考えており、商工業者経営改善等支援について商工会からの要望もあり、本定例会に補正予算を提出し議決を頂きましたので、商工会とともに商工業の活性化も併せて努力してまいります。一次産業を含め人口減少等による担い手対策は、長期的課題でありますので、各関係機関と連携して取り進めてまいります。

次に、スキー場の斜面に花を、ということでございますのでご回答申し上げます。

ご質問のありました、スキー場の斜面に花を、にお答えをいたします。

スキー場は、坊主山の斜面のおよそ7,000平方メートルをスキー場用地として使用しており、冬季のスキー場開設のための管理業務として、年2回の草刈りを実施しております。

「斜面に花を植え、観光スポットへすることはできないか」とのことではありますが、下草の除去が必要な芝桜や根を張る植物は、好ましくないものと考えます。過去には、長万部町衛生組合が平成17年から21年にかけて、「花いっぱい運動」の一環としてスキー場斜面に芝桜やアヤメなどを植えたことがありましたが、斜面の土が流れるなど、管理が大変であったと聞いております。

また、下草の除去などに多額の管理経費が必要となることから、現時点で実施する考えはございません。以上です。

〔町長（木幡正志）自席へ〕

○議長（辻義雄） 大谷議員。

○議員（6番 大谷敏弥） 何点か質問いたします。林業の活性化なんですが、引き続き森林整備担い手対策推進事業を関係機関と連携し推進とありますが、どこを考えてますか。

○議長（辻義雄） 対馬産業振興課長。

○産業振興課長（対馬政宏） お答えいたします。林業作業員の就労条件の整備事業の関係で、道との連携を図りながら、就業の整備にかかるものに対して、事業主、町村、道が掛け金を負担しながら、就労支援をするという事業を継続的に行っておりますので、道と森林組合等の事業機関と連携を密にして、進めていきたいと思っております。以上です。

○議長（辻義雄） 大谷議員。

○議員（6番 大谷敏弥） 次に、本定例会に補正予算を提出し、予算が付きましたが、商工業者経営改善等支援について、今後も継続する考えがありますか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 商工会の方から要望が上がってきた今回の補正の関係なんだけども、これ今商工会の方で事業実施に向けて今検討をしながら、前に進めていく段階でありますので、その後商工業界の方からどういう形で、いい結果が生まれてくれればいい。いい結果を目指してくれる、そういう形の結果が見えてきて、そしてまた足りない分を補う、そういう事態が発生すればそれは考えられると思います。以上です。

○議長（辻義雄） 以上で大谷議員の質問を終わります。

長崎議員。

〔議員（2番 長崎厚）登壇〕

○議員（2番 長崎厚） 私は長万部地区を各町内会の名前でと、先進的アグリビジネス事業についての2点を質問をさせていただきます。

1点目。長万部地区を各町内会の名前で。

当町は静狩・双葉など各町内ごとに区分されており、特に長万部地区は戸数も多く、住所が「字長万部何番地」と記されていても地元の方でも分かりづらく、他町村の方にとっては住所を探すのは大変難しいことと思います。長万部地区として高砂町・南栄町など各町内会があり、その町内会の町名を「長万部町」の後に「字高砂、字南栄何番地」などと表記することで、はるかに分かりやすく住所を探すことができると思います。これからの新幹線駅周辺整備やまちづくりのことなどを踏まえると、表記の変更をしてもよいと思いますが、町長のお考えをお伺いいたします。

2点目です。先進的アグリビジネス事業について。

先進的アグリビジネス事業は、平成27年度に3,000万円、28年度に7,000万円、29年度に1億円の予算で行われてきました。本年度は、国4,000万円、長万部町4,000万円の合わせて8,000万円の予算が成立し、ハードウェア（ハウス等）部分については第三者から資金調達の目途がついたため、予算8,000万円全てをソフト事業に充てるように変更するとの説明がありました。そのソフト事業経費の内訳は、1、雇用維持・創出に1,000万円。2、売り上げ拡大に1,000万円。3、生産効率化、集荷量増加に1,000万円。4、再生エネルギー導入、拡充に1,000万円。5、長万部町および当該事業全体ブランディング・プロモーション強化に3,500万円。6、大学との共同研究に関する費用に500万円となっております。

そこで、現時点での進捗状況、また、昨年ハウス1棟、今年度の3棟が増えて4棟となる計画ですが、4棟で雇用される人数は何人になるのか、以上の件についてお伺いをいたします。

〔議員（2番 長崎厚）自席へ〕

○議長（辻義雄） 木幡町長。

〔町長（木幡正志）登壇〕

○町長（木幡正志） 1問目の長万部地区を各町内会の名前でというご質問でございますので、回答いたします。

ご質問のありました内容は、住居表示関連のことと理解いたしますが、字長万部地区におきましては、一方では「高砂町」「南栄町」などの通称名も存在しており、通称名を利用した方が、確かに分かりやすいというメリットがあることはご指摘のとおりかと考えます。

しかしながら、この住居表示を変更するには、様々な分野で膨大な関連する変更作業が想定され、かつ変更にかかる経費につきましても、莫大な予算が必要となることが想定されます。想定される手続・作業では、最初に新しい住所の表記方針を決めた上で、法務局と登記地番変更の協議を行います。その後、戸籍・住民基本台帳の変更作業に入りますが、関連経費の例を挙げますと、まず戸籍・住民基本台帳データの変更によるシステム改修や関連する税情報システムをはじめ、各種健康保険、年金などのシステム改修に数億円がかかることが予想されております。また、変更対象者自身で手続きが必要な主なものとしては、土地・建物等の所有者の住所変更登記、運転免許証の住所及び本籍の変更、預貯金通帳名義人の住所変更、携帯電話名義人の住所変更などがあり、町民や本町に本籍を置く方々にもかなりのご負担をお掛けすることが予想されます。このように地番変更の内容決定と法務局協議、システム改修や個人での手続きなどを考えますと、かなりの経費・労力と時間が必要となることが予想されます。町といたしましては、住居表示の変更については、そのメリットとタイミング、加えてそのコストについて熟慮した上で、判断しなければならないと考えております。今後は、新幹線駅周辺整備も含め、都市計画マスタープランの策定など、まちづくりの骨格が固まって行くこととなります。その後、町の人口が急増し、人口集中地区の拡大が顕著になってくるなどの状況となれば、住居表示変更のメリットはあるのかもしれませんが、現状の地域範囲において多大なコストと手間を掛けてまでの変更については、費用対効果を考えますと少なくとも今がそのタイミングではないと考えております。

2 問目、先進的アグリビジネス事業について、お答えをいたします。

まず、ハウスの増設計画の変更についてご報告をいたします。今年 2 月に開催された委員会での説明では、今年度は 3 棟増設する計画となっておりましたが、1 棟の増設による合計 2 棟の体制で運営となる見通しとなりました。これは、今年度は 2 棟分の売り先確保ができたものの、あと 2 棟分の販売先が確保できていないためであります。アグリビジネスの自立経営と雇用の確保を最重要事項として考えると、売り先確保して増設という順番を厳守する必要があることから、民間投資による増設でもあることから慎重に対応することになった次第であります。規模は縮小しますが、今年度の雇用創出の目標値や売上目標値などの K P I は、計 2 棟の生産で達成できる見込みとなっております。

次に、現時点での事業の進捗状況についてであります。2 棟目のハウス増設工事は、すでに施工中で、1 1 月までには完成し、年内に定植を終え来年 2 月には収穫予定となっているところであります。続いて今年度のソフト事業についてであります。1 の雇用維持・創出につきましては、今年度の K P I 目標値は 2 名であるところ、すでに 2 名が雇用され、現在は 5 名の雇用を確保し目標値は達成しておりますが、今年度中にさらに 1 名の雇用の確保を予定しており、目標値を上回る実績を目指しているところであります。ご質問での雇用人数につきましては、以上のことから、増設分も含めて 2 棟で合計 6 名の体制を目指しているところであります。2 の売上拡大につきましては、現在、新しいブランド名とパッケージのデザインを決定して、トマトの 2 作目が収穫時期を迎えておりますので、出荷開始する準備を進められているところであります。3 の生産効率化、集荷量増加につきましては、東京理科大学との共同研究を活用し、高糖度トマトの高収量栽培システムの北海道地域での効率的な運用を図ることで準備が進められております。また、トマトを栽培する培地でのホタテ貝の貝殻利用比率拡大に向けて、破碎片の大きさ調整などの検証を行っていく予定となっております。その他、選果器や保冷库などの導入により、トマトの栽培から収穫・出荷の効率化を図る準備が進められており、冷凍庫の設置により規格外品等のジュース活用などにも利用拡大で

きるよう、カスケード利用での売上拡大を目指しているところでもあります。4の再生可能エネルギー導入・拡充につきましては、ハウスなどの植物工場施設と太陽光発電設備との連携が進められ、ハウスなどで使用する電力の一部を太陽光発電によって補なわれる予定となっております。5の長万部町および当該事業全体ブランディング・プロモーション強化につきましては、書籍、新聞等によるメディア展開や、各K P I 目標数値達成のためのウェブサイト、電子商取引体制の構築等が進められており、最後に6の大学との共同研究につきましては、地域農産物のブランド化を通じた差別化が消費者に広く伝わっていない現状を踏まえ、農産物の価値をもたらすものを明確にし、消費者へ効果的に伝えるための有効なコミュニケーションツールが必要とされていることから、農作物に対する消費者の選考と情報提供に関する研究が行われているところでもあります。以上であります。

〔町長（木幡正志）自席へ〕

○議長（辻義雄） 長崎議員。

○議員（2番 長崎厚） 再質問をさせていただきます。

はじめに長万部地区を各町内会の名前で、の再質問でございます。大変長文に渡るご答弁をいただいたわけですね。大変だということは十分分かりました。理解をいたしました。それでは例えば、膨大な予算が必要、これは必要でない、システム改修に数億円かかる、数億円もかからない、全く町民や本籍を置く方々にも負担をおかけしない、さらにはかなりの経費と労力、それから費用対効果、これを全てこのような形でクリアできる。そういうことであれば、町もスムーズに手をかけれるんじゃないかと思うんですが、その辺はどうなんですか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 全てクリアできる方法。それを語るんですか、答弁で。平成12年の年にこの問題がやっぱり議会出てる。そのときは答弁の中で、全てのことを申し上げたんですが、そのときの予算で大体5億です。今調べさせて全部やったら、大体10億はかかるだろう。そして全部出来上がって、皆さんが完成期を迎えるのに10年掛かる。これから人口増が、増える見込みがあれば、問題の解決もできるけども、推計でだんだん人口が減ってくよと言われてる長万部の現状、財政状況から、その多額さを考えたら、当然今はタイミング的にはできないということしか言えないんじゃないかなと思ってます。

○議長（辻義雄） 長崎議員。

○議員（2番 長崎厚） 当然そうだと思います。私も分かります。私の全部を、戸籍から何から全部変えろというのではなくて、住所を分かりやすく、それは南栄町と、それから高砂町の境、このかどかに南栄町ですよ、高砂町ですよ、またその隣の南栄町の所は新開、新開との境目の両隣の方にワッペンみたいなものでいいんですよ。分かります。それを何箇所かに付けていただくことで、これは可能な限り、簡単に付くんじゃないかと。これは別に全部を変えるっていうわけじゃないので、何とかわかりやすい住所を表記して欲しいなと。それでなければどこかの町内の角ごとに、ここは何番地がありますよという表記してくれば、それも分かるんですが、それは読みづらいんでね、簡単な方法で、シールのようなものをぱっと貼るような形のような、そういう方法はないのか、ということなんですけども、その辺はどうなんですか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 通告の内容に沿って答弁を差し上げてるんであって、通告してないものを今ここで質問されて、やるんですかといわれても、ちょっと今答弁に窮するので、ご遠慮させていただきます。

○議長（辻義雄） 長崎議員。

○議員（2番 長崎厚） それでは2番目いきます。2番目の先進的アグリビジネス事業について、この部分について再質問をさせていただきます。6点についてソフト事業の内容を申し上げました。この中で、1点目の雇用維持・創出については、すでに2名が採用され、現在は5名確保されている。この確保というのは、まず5名の確保というのは、現実には雇用されているということなんですか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 現実の数字です。

○議長（辻義雄） 長崎議員。

○議員（2番 長崎厚） 雇用されてる5名の方の、全員これは社員として理解してよろしいですか。

○議長（辻義雄） 加藤まちづくり新幹線課長。

○まちづくり新幹線課長（加藤慶一） 長万部アグリで2名、それから一般社団法人で1名、それからこのアグリビジネス事業におけるコンソーシアムとして、東北パートナーズという会社があるんですが、そちらから東北パートナーズ農園というところなんですが、そこから2名ということでございます。

○議長（辻義雄） 長崎議員。

○議員（2番 長崎厚） ありがとうございます。2点目の売上拡大については、新しいブランド名とパッケージのデザインの決定とありますが、すでに決まってるのか、また決まっているのであればブランド名をお知らせ願いたいと思うんですが。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 26日にまちづくり新幹線特別委員会を開会をして、その中で縷々きちっと説明をして、それから公表しようって考え方持ってるんですよ。だからそれまでちょっとお待ちいただけませんか。

○議長（辻義雄） 長崎議員。

○議員（2番 長崎厚） そういうことであればお待ちをしてもいいかなと思っております。

それでは、ただトマトの2作目の出荷準備を進めてるということなんですが、いつ頃から出荷の予定ということなんですけども、もし出荷先が分かればあわせてお伺いをしたいと思います。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 実はもう出荷の作業は入ってるんですが、今回地震が起きたり、台風で流通が止まって、非常に難しいとこきて、でも保管してる部分、それからそういった時期に合わせて、8日の日に長愛会、デイサービスセンター、慈恵園、グループホームの方にもせっかくの機会だということで、試食用のトマトを配達をしております。それと同時に明日被災地に商工会青年部出かけるんで、それにもある程度の量は持って行って、被災地で救援活動して欲しいということで、今流通の再開を待ってる。もうそろそろ今朝の新聞見たんですが、動き出してきたということで、もうそろそろ現実の姿に戻る。台風から災害まであった時点でのちょうどそこにぶつかっちゃった。そんなことでご理解していただきたいなと思っております。

○議長（辻義雄） 長崎議員。

○議員（2番 長崎厚） 出荷先がある程度あるということは分かりました。去年の7月13日の全員協議会において、先進的アグリビジネスの説明会のために出席をいただいたインベストメント

マネジメント代表取締役片寄氏、アストマックス常務取締役小幡氏、合わせて7名の方が出席をされて説明をいただきました。その中で、小幡氏の説明がありまして、販売先は確保しており、その販売先では年間800トン、単価1,300円でも十分に黒字が出る。1,000円を割れてしまっても黒字が出るといった状態ということです。そういうことが説明されました。先ほどの答弁では、今年度は2棟分の売り先は確保されたものの、あと2棟分の売り先が確保されていない。それはどういうことなんでしょうか。おそらく同僚議員の皆さまも販売先が確保されているということで、説明があったので安心してこの事業を進めても心配ないということを考えてと思います。年間800トンの販売先が確保されているという説明は間違いだったんでしょうか。その辺のご答弁いただきたいと思います。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 今7月の話、おっしゃるとおりなんです。それで、我々も全員協議会において発言する、議会の場において発言するというのは行政マンであればやっぱり慎重に発言します。慎重に。ところが、民間の人というのはそういう規則的なことを認知してない部分があるので、ああいう話の結果になったんだろうと思って、その後計画の変更に至る段階で我々の方から実はなんでそうなったんだという話をさせていただきました。その時点でそういうふうな目標を話しても、そこには到達できるだろうという判断のもとに話した、ということでございましたので、それはとんでもない話だということで、先ほどお話しがあった小幡さんでなくて松岡さんの発言です。小幡氏の発言でなくて松岡さんの発言。そういうことで慎重に我々も対応するべく課長を東京まで2度ほど派遣をして、その内容を精査しながら今日迎えてこの間の行政報告の中でも述べさせていただいたとおりになってきたと。民間の事業者がやるんで、計画どおりにいくかいかないってのは予算の関係もある。そして民間が予算を集めて事業を進めてく。その段階では予算の取り方、集め方そして計画の売り先の探し方、様々なってくるんで、それは慎重にやらざるを得ないだろうということで、今回は彼らからもそれらの間違いの修正については大変申し訳なかったという話もいただいて、そして我々先ほど答弁したように今回のKPIの目標値には2棟でも十分いけるという判断をさせていただいて、国に返還を求められる、そういった部分が発生しないということを確認しながら、今回進めることを認めておいたということで、26日にまちづくり新幹線特別委員会で縷々相対的な説明を加えて、今後の事業展開を図っていつてもらいたい、そういう願いから今回謝罪文も実はいただきました。それも委員会の中に全て添付をしてありますので、そういったところで委員会での審議を見ながらご理解をいただければと思っておりますのでよろしくお願いしたいと思います。

○議長（辻義雄） 長崎議員。

○議員（2番 長崎厚） 先ほど言ったのが、その小幡さんじゃなくて松岡さん、私の言ってるのは同じとこだと思うんですが、平成29年度7月13日、14頁上から5段目から8段目まで、これは事実小幡さんが説明をされています。もう一度読ませていただきますけども、「先ほど販売先確保してある先というのが、800トンぐらい年間でございますので、十分に捌ききれる範囲かなと思っています。この規模でやりますと、単価1,300円でも十分に黒字が出る。1,000円を割れてしまっても黒字が出る。」このように説明されています。これは議事録ですから、そちらがどうこう言ってもこれは変わりません。あ、会議録。ですから、まずこれは私の言ってることは間違いありません。議長その辺のどこ答弁させてもらっていいですか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 先ほどから言っているとおり、議事録から取ったらそれは間違いないですよ。そのとおりだと思う。ただ、そういう発言をした問題の意識というのは彼らにもまだ若干なかったのかなと思っております。今回いろいろな修正をかけて、そして新たに間違いないとこで今後事業展開を進めていくということの報告をこれからさせていただきたいなと思ってますし、今回も資料的には東京の方の資料もはさめておりますので、それをまた説明をさせていただければと思ってます。

○議長（辻義雄） 答弁調整のために暫時休憩いたします。

10時55分 休憩

10時57分 再開

休憩前に引き続き会議を開きます。

木幡町長。

○町長（木幡正志） 先ほどの質問の中で、議事録の関係で今書類見せてもらいました。松岡さんが話した経緯というのはあるんですが、議事録の中では小幡常務ということになっておりますので、訂正をさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

○議長（辻義雄） 長崎議員。

○議員（2番 長崎厚） ありがとうございます。今の部分の年間800トン、販売先が確保されてる。このことについては確かめられた、または確認をした、これは確実に言ってるということでもいいのか悪いのか。それと間違いだったのかという点についてもお伺いしたい。

○議長（辻義雄） 加藤まちづくり新幹線課長。

○まちづくり新幹線課長（加藤慶一） まずこの売り先の確保の問題についてなんですけども、こちらは当初売り先が確保されているというお話しについては、これは長期の継続した契約を取れるかどうかという部分で、各業者さんにはその長期の実績が必要だと言われてますということです。引き続きそこは今実績を作るということで、収穫そして選果して、出荷できる体制をきちっと、ラインをきちっと構築して、長期に安定してできるような体制で、これを作って売り先の確保と言いますか、今アプローチをかけてる業者さんに対して実施をしてくということで、今実際にそれらの業者さんの想定してるリストというのもいただいております。そちらでの長期の継続の契約を取るための形を今やってくと。そしてこの増設については民間資金を投入してるということでございますので、必ず収益を上げる道筋を付けた形で増設に踏み切っていくことを目指しているというところでの説明でございます。以上でございます。

○議長（辻義雄） 課長、これからのことじゃなくて、今長崎議員聞いているのは、7月13日の800トンとか、例えばそういうことを聞いているんで、修正するならしてもらわなかったら、これ以上進められませんか。

加藤課長。

○まちづくり新幹線課長（加藤慶一） 7月にご説明した内容については、誤りであったということでのご説明を受けております。

○議長（辻義雄） 長崎議員。

○議員（2番 長崎厚） それでは、今回今年度の8,000万円について、その話は先ほど申し上げましたが、同僚議員の方々も当然販売先確保できてるということを確認して予算を通したわけですから、嘘だっていう話で元に戻れないんですよ、これ。議決した以上は。行政は行政なりの責任がそこに発生してくるんですよ。業者さんがやる。民間の人達がやる。そうじゃないでしょ。そ

れを管理運営、国に補助金を申請したのは誰ですか。加藤さんでしょ。担当課じゃないですか。担当課のあなたの名前が入ってますよ。業者さんがどうのこうのと、民間の人がどうのこうのと、そういう話にはならないでしょ。責任をもってそれを国に申請した書類に、きちっと判を押して、ほかの人の名前入ってないわけですから。その辺をどういうふうに感じてるんですか。

○議長（辻義雄） 加藤まちづくり新幹線課長。

○まちづくり新幹線課長（加藤慶一） この地方創生推進交付金の目的、国の目的というのは、あくまでも実施計画、国に対して町から提出した実施計画、こちらに基づいて実施されてるかどうかということが重要でありまして、その重要なものとしては、重ねて申し上げますけども、これらの目標を達成するために、地方創生の推進ということですから、最終的には雇用者の増。雇用者の増ということは収益の確保、そしてこのK P I指標というのが設定しておりまして、それぞれ各年度において、雇用者の人数の増加人数ですとか、売り上げ目標というのを設定して、こちらは国に認められて、交付金を受けてるというような状況でございます。ですからこれは、毎年これは非常に新しい分野で取り組んでるということですから、P D C Aをしながら、見直ししながら進んでいくということでやっておりますので、これはK P I指標を達成してるかどうかというところをきちっとご理解いただいて、そこを理解した上で、皆さんご議論していただきたいというふうに思っております。

○議長（辻義雄） 質問と答弁と合いませんので、議事運営協議のために暫時休憩いたします。

11時03分 休憩

11時33分 再開

休憩前に引き続き会議を開きます。

長崎議員。

○議員（2番 長崎厚） ただいまの担当課長の説明がありましたけども、納得ができませんので、改めて町長の答弁をいただきたい、そう思いますので。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） ご納得できない部分が多々あるかと思いますけれども、我々も今本会議場に詳細な資料を持ち込んでおりません。それで9月の26日に先ほどからお話しさせていただいておりますけれども、26日の特別委員会には全ての資料を出して、ご議論いただければと思っておりますので、よろしくご配慮お願いいたしたいと思います。

○議長（辻義雄） 長崎議員。

○議員（2番 長崎厚） 26日ということですから、先ほどの点も26日という説明がありましたので、その26日に、また違う資料、出すべき資料があれば、そのときに提出していただけるかな。そういうふうにして思うんですが、いかがですか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 先ほど申し上げたとおり、全ての資料を提出します。

○議長（辻義雄） 以上で長崎議員の質問を終わります。

村川議員。

〔議員（7番 村川毅）登壇〕

○議員（7番 村川毅） 私は2点について質問いたします。

まず、子育て支援として給食費の無償化をしてはどうか。

2期目の子育て支援の重要政策として、町長は高校生までの医療費の無料化の条例改正を今定例

会に上程しましたがけれども、子育て世代の経済的負担を減らして、安心して子どもを産み育てやすい環境づくりの支援、さらに定住・移住促進の一環として給食費の無償化をしてはどうか、町長の所見を伺います。

次、地方創生総合戦略の評価・検証とアグリビジネスについて。

平成27年度から5年間の地方創生総合戦略も来年度が最終年度となります。長万部町の地方版戦略事業は、6つの戦略、18の施策、50の取り組みから成り立っています。この総合戦略は、まちづくり推進会議の委員によって評価・検証されることとなっていますが、この間、委員からはどのような意見や要望が出されておりますか。また、交付金事業の「再生可能エネルギーを活用したアグリビジネス」については町からの補助金も出ており、さらにパート従業員の採用も予定されていることから、町民も事業の進捗に注目しているところです。そこで、現在は当初の計画どおりに進んでいるのか。また、交付金事業が終了した後、町はこの事業にどう関わっていくのか、町長の所見を伺います。以上です。

〔議員（7番 村川毅）自席へ〕

○議長（辻義雄） 木幡町長。

〔町長（木幡正志）登壇〕

○町長（木幡正志） 子育て支援として給食費を無償化してはどうかということでございますので、ご回答申し上げます。

給食費負担金については、給食材料費相当額を負担していただくために、納付していただいております。平成29年度分では、小学校、中学校、高校合わせた給食費負担金は、2,039万円であり、学校給食センター費の歳出総額、1億173万円の約20パーセント相当にあたります。「子育て支援として給食費を無償化してはどうか」という質問ですが、給食費負担金を無償化した場合、毎年度、その負担金分を町が負担することになり、財政的に厳しくなると考えます。また、給食費につきましては、日常生活の食費と同様にとらえ、家庭で負担していただくのが基本であると考えておりますので、無償化の実施は考えておりません。

次に、地方創生戦略の評価・検証とアグリビジネスについてであります。

1点目の地方創生総合戦略の評価・検証についてお答えをいたします。地方創生総合戦略の評価・検証のまちづくり推進会議の委員からはどのような意見や要望が出されたのかについてですが、推進会議の中で地方創生部会を設置し、長万部町創生総合戦略の取り組みについて、KPI目標達成に有効だったか有効でなかったかという評価の仕方で検証を行っております。それらの中で、葛飾区との交流事業、新規就農者参画促進事業、空き家などの情報発信、防災体制の強化、高速道路通過客の町内呼び込みの促進、公共施設の効率的効果的な維持管理と最適配置、アグリ事業などの取り組みについて、KPI目標達成に向けて、今後も引き続き努力していくようにとの意見・要望が出されております。

2点目のアグリビジネスについてお答えいたします。

現在は計画どおりに進んでいるかのご質問ですが、先の同僚議員からのご質問でもお答えしましたが、今年度は3棟増設する計画となっていたところ、1棟の増設による合計2棟の体制で運営となる見通しとなりました。これは、現在のところ増設分含めての2棟分しか販売先が確保できていないためであります。アグリビジネスの自立経営と雇用の確保を最重要事項として考えると、売り先確保して増設という順番を厳守する必要があることと、民間投資による増設でもあることから慎重に対応することになりましたが、規模は縮小しつつも、今年度での雇用創出の目標値や売上目

標値などのK P I は、計 2 棟の生産で達成できる見込みとなっております。

また、交付金事業が終了後に、町はこの事業にどう関わっていくのかのご質問ですが、地方創生推進交付金による事業支援の最大の目的は、事業終了時には収益を確保し、雇用も目標に掲げたK P I 達成しての自立経営を目指しておりますので、基本的には町が補助金などによる関わり方については、現状においては考えておりません。しかしながら、町と理科大との連携事業で誕生した地元企業でありますので、当然、地方創生に貢献する産業として、ふるさと納税の返礼品での採用も検討するなど、今後は地元企業としてさらなる発展をしていけるよう資金面以外での可能な限り支援をしてまいります。以上です。

〔町長（木幡正志）自席へ〕

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（7 番 村川毅） それでは最初に、給食費の無償化についての再質問をさせていただきます。

給食費は、日常生活の食費と同様に捉えて家庭で負担するのが基本だと。私自身も子どもの給食費を払うのは、親として当然だと思っておりました。しかし、このあとの質問にも関係してきますけれども、今人口減少の問題で、子育て支援をどうするのか、これは日本全国各市町村で対策を考えているところです。町長も子育て世代の支援を重点政策に掲げておりますけれども、若い子育て世代の皆さん、いろいろほかの町の情報を仕入れております。特に、長万部町に転勤などで転入してきた子育て世代から、「近隣の町は無償だったり、2 分の 1 補助などと、給食費の負担をなくしたり軽減したりしているのに、長万部町はできないのでしょうか。」と言われます。人口減を食い止める子育て世代の定住・移住促進、食育教育の一環としても、給食費の無償化はもはや時代の趨勢のような気がしておりますけれども。財政の問題も当然あるでしょうが、無償なのか、一部補助なのか。町長この 4 年間で調査研究してみる余地もございませんでしょうか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 子育て支援の重点的な対応というのは、議員も知ってのとおり中学生までの医療費の無料化をやり、そして保育所の第 2 子の無料化をやり、そして今回新たに 9 月定例議会で条例改正をしながら、高校生までの医療費の無料化に進めるということで、これは 1 2 月 1 日から実施をするということで、即対応してまいっております。国の制度の方もいろいろと制度改正しながら、子育て支援策を打ち出してきてはいるんだけれども、ただ、自分自身の判断でちょっと申し訳ないんだけど、私も 5 人兄弟、母も苦しい中で、やっぱり 3 食きちっと取らせて育てていただいたということを感じております。ここまで全部全てやっちゃったら、本当に親としての責任ってのはどこにあるのかなっていうのは、私の実は持論でもあり、それを展開してきたことでもあったんだけど、時代の趨勢ってのはこれからどんどん変わっていくものだなと思っておりますし、今答弁で申し上げたとおり、2,000 万円を超える負担をしていただいている。1 食大体 250 円から 300 円で、今給食費の負担をしていただいている。一時は給食費の滞納がものすごくあった時代もあったんですが、それも乗り越えて、今本当に全体 100%に近い納付をいただいているところでもあります。これが新たな時代の趨勢が変わってくれば、その時点で子育て支援のためにどうするかということを考えていく時期がくるんだろうな、そんなことを考えておりますけれども、先ほどから申し上げたとおり、毎年ごと 2,000 万円以上の負担が財政的にかかるとすれば、やっぱり財政検証しながらきちっとした対応・対策を考えて、その上で踏み込む、進んでいくという考え方になるのかなと思ってます。ただ、絶対やらないという方針だけは持たないようにしようと自分に言

い聞かせてますので、ひとつご理解いただければと。

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（7番 村川毅） ありがとうございます。絶対やらないということではないんですね。

次は、地方創生総合戦略の評価・検証とアグリビジネスについてということで、K P I の目標達成に有効だったか有効でなかったか、町民の代表の推進会議の中の地方創生部会で評価・検証を行って、また、目標達成に向け意見・要望をいただいているということでしたけれども、1点目の質問は、この検証結果を国に報告する義務はあるのでしょうか。また、町民に知らせる機会はあるのでしょうか。質問します。

○議長（辻義雄） 加藤まちづくり新幹線課長。

○まちづくり新幹線課長（加藤慶一） こちらは報告はしております。これについてはK P I を達成するに有効であったか否かというような形での報告ということになっております。

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（7番 村川毅） 町民についてはどういうふうになりますかね。

○議長（辻義雄） 加藤まちづくり新幹線課長。

○まちづくり新幹線課長（加藤慶一） 町民に周知という形では実際行ってございません。

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（7番 村川毅） この地方版総合戦略はあと1年ありますよね。31年度終了した段階で、この50項目の検証は全部されると思うんですけども、その時点で何らかの形で、冊子にしないでいいんですけども、何らかの形で町民に長万部の問題、これからの検証結果ということで、周知していただければと思うんですけども、いかがですか。

○議長（辻義雄） 加藤まちづくり新幹線課長。

○まちづくり新幹線課長（加藤慶一） ご質問のとおり、5年間の計画が終了を迎えるわけなんです。国におきましても、国の総合戦略を、また計画期間終了とともに、また新たに策定するという準備を進めているというところがございます。それで、地方においても、これに掲載されている事業について、例えば今後交付金等が、支給されるというような法案が成立しますと、これ載ってなければ、それについては補助できないという形になろうかと思っておりますので、当然我々としても検証を進めて、今後の計画づくりについて、これから検討を進めていかなければならないというふう考えております。

これについては当然、現在まちづくり推進会議等でご議論いただいておりますけども、当然町民の方に入った中での、これは当初総合戦略を作るときにその中に町民の方々による委員で構成された中でご議論もいただいておりますので、そういった形で当然議論は進めていくという形になろうかと思えます。それと、周知についても当然町のホームページ、あるいは広報等で周知を図ってまいりたいというふう考えております。

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（7番 村川毅） 分かりました。まず、この地方版総合戦略は今言ったように31年度まで。現在の第三次総合計画はその翌年で終了することになります。ですから、この地方版総合戦略の検証をしっかりと、その結果を第四次総合計画に落とし込んでいくということが大事だと思うんですけども、そういう方向で行くとは思いますが、ここで1回確認しておきたいと思えます。いかがですか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） もちろん、第四次まちづくり総合計画策定の際には、それを十分勘案して、取り組んでいく形になろうかとは思います。

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（7番 村川毅） そうですね、その意味では地方創生部会の委員の皆さんは大変でしょうけれども、しっかりと評価・検証をしていただきたいというふうに思っております。

次に、アグリビジネスについてお聞きします。前の同僚議員の質問とダブる部分はありますけれども、今年度の計画では、ビニールハウス3棟建てるといった計画が1棟になったと。その理由が販売先が確保できていないという説明でしたけれども、当初の説明では販売先は確保できているので、今年は4棟にするというふうに私は記憶しておりまして、この今年3棟建てるのが1棟になったという話を聞いて、非常に驚いておりますし、また、危惧もしております。国に出している計画のKPI目標値は達成できる見込みだということで、もちろんそれは大事なことです。大事なことですけれども、町がしなければならないのは、町民の皆さんに対する説明責任だと思いますよ。特に今年2月9日福祉センターにおいて昼と夜2回に渡って、アグリビジネス町民説明会をしましたよね。そこに来た皆さんは、今年は4棟になって、来年には10棟になって、パート従業員は30人から40人採用するという説明を受けてます。その皆さんに今年度は1棟しか建たないので、パートの採用も当初より少なくなるという説明はしてるんでしょうか。どうですか。

○議長（辻義雄） 加藤まちづくり新幹線課長。

○まちづくり新幹線課長（加藤慶一） こちらは2月に町民説明会に来られた方々につきましては、連絡先等を一般社団法人の方で押さえておりますので、そちらの方々にはそれぞれ個々に対応するというで聞いております。

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（7番 村川毅） 当日説明会にいらした方は、結構7～80人いたと思うんですけども、その中でパートを希望する人は、確かアンケートかなんか取って、住所と連絡先とか書くようにしてたと思うんですけども、その方達って何人いたんですか。

○議長（辻義雄） 加藤まちづくり新幹線課長。

○まちづくり新幹線課長（加藤慶一） 約30名ということで聞いております。

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（7番 村川毅） じゃあその30名の皆さんに連絡したんですか。

○議長（辻義雄） 加藤まちづくり新幹線課長。

○まちづくり新幹線課長（加藤慶一） その後の計画変更等につきまして、ご説明をしてるということで聞いております。

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（7番 村川毅） 連絡してるということでいいんですね。

○議長（辻義雄） 加藤まちづくり新幹線課長。

○まちづくり新幹線課長（加藤慶一） はい、そのように聞いております。

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（7番 村川毅） 町としての問題意識が薄いような気がします。町から連絡してもよかったんじゃないんですか。誰が連絡したんですか。

○議長（辻義雄） 加藤まちづくり新幹線課長。

○まちづくり新幹線課長（加藤慶一） これは一般社団法人北海道おしゃまんべおよび長万部アグ

リの方からというふうでございます。

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（7番 村川毅） 今回の行政報告もそうですけれども、3棟建てる予定だったのが、何らかの事情で1棟になりましたっていう行政報告じゃないですよ。いきなり1棟建てますということで、それを見て町民はどうなのかな、もしかしたら最初から1棟だったのかなというふうに思うこともあると思うんですけれども。この事情をやっぱ町民の皆さんに知らせるべきだと思うんですよ。そういう意味で毎月広報でアグリビジネスのページがあるわけですから、そこできちっと中身を知らせるべきだと思うんですけども、どうですか町長。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） いろんな話題を提供してきてはいるんだけど、今回のその計画変更含めて、やっぱり今言われたとおり、広報できちっと掲載をして、広く町民に周知していきたい、そう思っています。

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（7番 村川毅） ぜひそうしていただきたいと思います。成功事例ばかり載せるんじゃないくて、もう中身をきちっと洗いざらい晒すべきだと思うんですよ。それで、この29年度から31年度までの3年間の交付金の総事業費は2億8,000万円なんです。町の3年間の補助の予定金額は半分なんですよ1億4,000万円。町が1億4,000万円出すことになるんですよ。だからこの事業は絶対成功しなければならないんですよ。みんなして。町民も含めて。応援をいただいて絶対成功しなきゃならないんですよ。この事業終了後の町からの補助金は考えていないということです。今後事業終了まで町としては理科大側としっかり協力体制を取りながら来年度終了時には収益を確保して雇用も生まれて、自立経営をしていける企業にしなければならないんです。さらに、事業終了後はふるさと納税の返礼品の採用も考えるということですけども、この程度だったら弱いと思うんですよ。ですから、役場の中にまちづくり新幹線課だけではなくて、課を横断してアグリビジネス事業の対応のための協議会みたいなものを設置して、全員でこのアグリビジネス成功に向けて取り組んでいくというような方向に進めていただきたいと思うんですけども。最後の質問です。いかがでしょうか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） まず、見えない部分をきちっと見えるようにする。今まで東京で会議を開いていたんだけど、それを先月から毎月長万部で会議を開く。そして我々もオブザーバー参加してその進捗状況をよく見極めるために、今月も27日に長万部で全員集まって会議を開く予定にもなってるし、今後はやっぱりそういったものをきちっと検証しながら、確実な成功に向けて努力していかなければならない。先般も2月の末に東京理科大学の学部編成の段階で東京行った際も本山理事長からお話があつて、これは東京理科大学も絡んでるんだから、絶対成功させなきゃだめだと。成功させるために全員で努力していきましょうというお話をいただいて来ておりますので、前回の長万部での会議の対応も、確認としてこれは成功に結びつけるための会議を開催をしているという認識を持ってやっていこうということで、今月もまた長万部でやる。これからの会議は全て長万部で会議を開いてもらう。そういうような形で路線を敷かさせていただいて、今横断的に各課の支援もいただくべきだということもお話しいただきました。実は去年議員からも組織体制の見直し、これ当然考えるべきだということもご指摘をいただいて、私も9月以降に考えながら、12月、必要であれば来年の4月からに向けて、各課の組織見直しも考えていくということも答弁させていただ

いてることもございますので、ぜひそうした中で、組織体制の相対的な見直しをかけながら、横断的な、縦割りではなくて横断的な方法で、組織を持っていきたい、そう思っておりますので、ひとつしばらくお時間をお貸しいただければと思います。

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（7番 村川毅） ありがとうございます。終わります。

○議長（辻義雄） 以上で村川議員の質問を終わります。

以上をもって一般質問は通告どおり全部終了いたしました。これをもって一般質問を終結いたします。

以上で本日の日程は全部終了いたしました。

◎休会の決定

○議長（辻義雄） お諮りいたします。9月13日は決算審査特別委員会の付託案件審査のため、休会としたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

ご異議なしと認めます。

よって、9月13日は休会することに決定いたしました。

なお、本会議は9月14日午前10時から再開いたしますのでご承知おきます。

◎散会宣告

○議長（辻義雄） 本日はこれにて散会いたします。ご苦労様でした。

12時00分 散会
